

自分を受けとめて

浜田市立浜田東中学校 二年 東條蓮

私には、吃音症という症状があります。吃音症とは、滑らかに話すことができない状態のことを言います。話すときに音や語の一部を繰り返したり、引き伸ばしたり、言葉が詰まるのが代表的な症状です。私の場合は、おもに繰り返す症状です。

私の周りの友だちには「吃音症」について理解している人はあまりいません。そのため、今までからかわれることがたくさんありました。

私は小学校のとき、今よりも症状がはっきりと出ていました。ひどいときには、友だちや家族との会話が成り立たないほどの症状が出ることもありました。でも、その頃の私は、これが普通だと思っていて、自分の話し方を特に気にすることなく過ごしていました。

けれど、ある日、いつものように友だちと話しているとき、その友だちが、「蓮ちゃんのしゃべり方って変だよ。なんか詰まっていて面白い。」と言ってきたのです。初めて自分の話し方について触れられて、しかも「変」と言われたことに戸惑いながら、「え？そうかな？」

と、なんとか答えることはできました。その後、自分の話し方が気になってはいましたが、その友だちからは、それ以上言われることはなく、その日は、なんとなく引がかかった気持ちのまま家に帰りました。

今の私なら、気になったことをすぐに調べようとするし、そのための手段も分かります。けれど、当時の私は「調べる」ということは思いつかなくて、そのまま放置してしまいました。

その一件があってから、集会や教室など、大勢の人の前で話をするのが苦手になってきました。話をするたびに、「あの人、どう思っているんだろう。」とか、「さっきの話し方、変だったかな。」などと、考えるようになりました。それでも、症状は放置したままです。ですが、小学校卒業が近くなる頃には、なぜか症状は軽くなっていました。

それなのに、中学校入学から一か月くらいたった頃、突然、症状が強くなるようになりました。なんとなく、環境が変わったことが原因ではないかと思いましたが、よく分かりません。症状が出てからは、なるべく仲の良い人とだけ話すように気を付けて過ごすようにしていました。

そんなとき、あるユーチューバーに、私と同じ症状があることを知りました。症状をもとに調べてみて、そこで初めて「吃音症」という言葉にヒットしました。その日から、いろいろな情報を集めて、どう対処すればいいのか分かったことで、私の症状は軽くなったように見え、人前で話すことも少しずつできるようになりました。

だから私は、誰にでもできそうな「話す」ということを、たいへんだと感じる人が、世の中に多くいることを知ってほしいです。そして、理解が進むといいなと思っています。

もしも、友達や知り合いに、話しづらそうにしている人がいたら、その人が話せるまで待っていてほしいです。私は、自分の症状が分かっているから、少しくらいからかわれても気にしないようにしようと思えるようになりましたが、悩んだり傷ついたりしている人はたくさんいます。冗談半分やお笑いのツッコミのつもりで、からかうような声をかけるのは、絶対やめてほしいです。

私は、自分のこの症状を知ることで、それを受け止めて、一步踏み出すことができました。ですが、自分のことを調べていく中で、私は、自分とは違う病気や症状のこともたくさん知りました。他の人の言葉で自分が傷ついたときのように、自分が無神経な言葉で相手を傷つけることがないようにしたい、相手の気持ちをくみとれるようになりたいと思うようになりました。

世の中には、いろいろな病気があって、そのことで悩んだり苦しんだりしている人がたくさんいます。そのことを理解しようとする人が多くなって、苦しむ人が一人でも減ることを私は願っています。